内田康哉関係資料集成

全3巻

第二次西園寺公望、原敬、高橋是清、加藤友三郎、斎藤実内閣において外相を務めた内田は、明治・大正・昭和の世をどのように駆け抜けたのか。

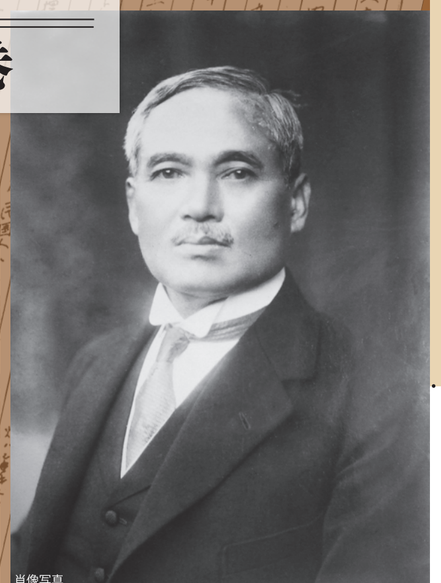
［編集］小林道彦／高橋勝浩／奈良岡聰智／西田敏宏／森靖夫

A5判上製・セット函入／総1858頁
揃定価（本体39800円＋税）※分売不可

妻・政子とともに

昭和7年12月26日非常時議会開会を前に

不戦条約調印式


肖像写真

柏書房　〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13 TEL.03-3830-1891（営業）FAX.03-3830-5337
E-mail:eigyo@kashiwashobo.co.jp URL:http://www.kashiwashobo.co.jp

各巻構成

第1巻……資料編1
- 口絵写真
- 解題（文書解説、故内田伯伝記編纂事業、評伝）
- 資料翻刻
  - ①内田伯日記抜録（大正10年～昭和7年）、天津日記（大正15年）、内田政子日記（明治23年～34年）／②内田伯遺稿、内田伯遺稿写／③往来書翰、書翰案、書翰控
- 資料目録／年譜／系図／人名索引

第2巻……資料編2
- 資料翻刻
  - ①回想録、論文、新聞記事、人物評／②葬儀記事、一周忌追悼談、懐旧座談会記録
  - ③帝国議会外交演説／④満鉄総裁・リットン調査団会見録
- 各種写真

第3巻……伝記編
- 『内田康哉』（1969年に鹿島研究所出版会より刊行された同書を翻刻収録）

柏書房の本

芦田均日記 1905–1945（全5巻）

福永文夫・下河辺元春［編］
A5判総3,240頁　揃定価（本体48,000円＋税）

本資料には、芦田均の第一高等学校在学中から、東京大学を経て外務省入省、衆議院議員、ジャパン・タイムス社長、終戦に至るまでの、これまで非公開だった戦前・戦中期（1905年から1945年）の日記を翻刻して収録。ほかに解説、年譜、人名録、執筆目録などの参考資料を付す。

侍従武官長
奈良武次日記・回顧録（全4巻）

波多野澄雄・黒沢文貴他［編］　オンデマンド版
A5判総1,696頁　揃定価（本体65,000円＋税）

陸軍大将奈良武次の膨大な日記から、東宮武官長、侍従武官長時代の十余年を収録。皇太子訪欧への随行から張作霖爆殺事件、五・一五事件、満洲事変勃発など、つねに昭和天皇の傍にあって記録された、現代史への画期的な証言。回顧録も収める。

日本海軍士官総覧【復刻版】

海軍義済会員名簿・昭和十七年七月一日調
【財団法人】海軍義済会［編］　戸高一成［監修］
A5判1,584頁　定価（本体32,000円＋税）

明治より昭和17年4月1日までに任官（候補生も可）した海軍士官1万9300人余（現役に転官した予備士官、二年現役士官を含み、予備士官、特務士官を含まない）を出身科・期別に収録した、日本海軍、軍事史研究の根本資料である。

お勧めします

近現代史研究者／政治史研究者／外交史研究者／大学・公共図書館

注文書

書店名

柏書房発行

内田康哉関係資料集成（全3巻）
小林道彦／高橋勝浩／奈良岡聰智／西田敏宏／森靖夫［編集］
揃定価（本体39,800円＋税）
※分売不可

ISBN978-4-7601-4172-2

冊

お名前

ご住所（〒　　）

TEL.

ご所属

陸奥宗光に可愛がられ、外務官僚として英国公使館二等書記官、駐清公使、駐墺・米・露大使を歴任。着実な出世を遂げた内田が、外相として対英米協調外交から焦土外交へと大転回した裏側を探る!!

内田康哉年譜

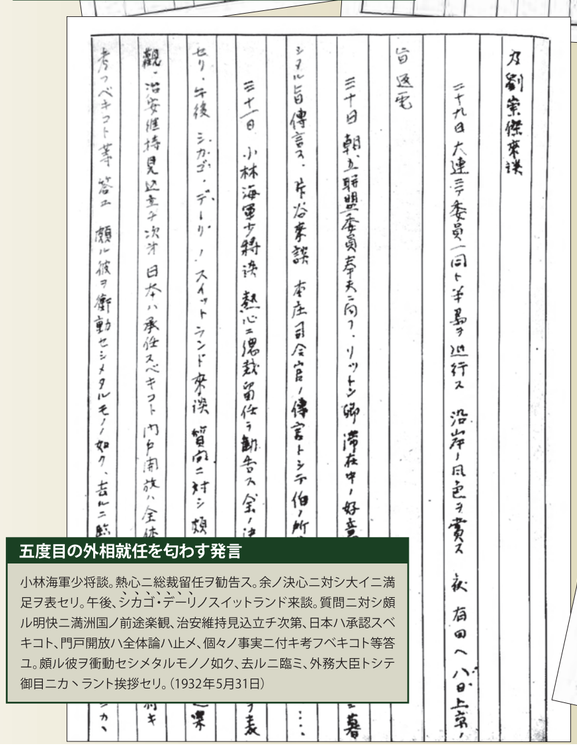
年次	年齢	内田の事蹟と主な出来事
1865年（慶応元）	0歳	8.10 熊本藩士・内田玄真と母仁加の長男として、肥後国八代郡和鹿島村で生まれる。
1876年（明治9）	12歳	9.— 京都・同志社に入って英書を学ぶ。
1877年（明治10）	13歳	2〜9 西南戦争。
1878年（明治11）	14歳	9.— 同志社を去り、11月熊本県広取英語学校に入学。
1881年（明治14）	17歳	2.— 熊本県広取英語学校卒業。 6.— 大学予備門第二級に入学。
1883年（明治16）	19歳	6.— 大学予備門卒業。 7.— 東京大学（のち帝国大学）法学部に入学。
1887年（明治20）	23歳	7.— 帝国大学法科大学政治学科卒業。 7.18 任交際官試補、外務省取調局勤務を拝命。
1888年（明治21）	24歳	7.22 ワシントン在勤を拝命（9.2着任。駐米公使・陸奥宗光）。
1889年（明治22）	25歳	12.— 帰朝を拝命（明治23.1.25帰朝）。
1890年（明治23）	26歳	5.23 任農商務大臣秘書官（陸奥宗光・農商務大臣）。
1891年（明治24）	27歳	8.11 任農商務省総務局第一課長兼第三課長心得。
1892年（明治25）	28歳	3.17 任農商務大臣官房秘書課長。 9.16 任外務書記官（陸奥宗光・外務大臣）、任外務大臣官房庶務課長兼官房秘書課勤務。
1893年（明治26）	29歳	1.11 任公使館三等書記官、英国在勤を拝命（4.7着任）。 11.10 任公使館二等書記官。
1894年（明治27）	30歳	1〜7 日英通商航海条約締結のため活躍。 5.31 韓国東学党の乱。 8. 1 日清戦争。
1895年（明治28）	31歳	4.17 下関条約調印。下関条約に対する露・独・仏の三国干渉。 8. 1 清国在勤を拝命（9.10着任）。 11.14 任公使館一等書記官。
1896年（明治29）	32歳	11. 3 在清国臨時代理公使。
1897年（明治30）	33歳	7.13 賜暇にて北京を出発し、26日帰朝。 10.22 任弁理公使兼任外務書記官。 11. 1 任外務大臣官房記録課長。 11. 8 任外務省通商局長。
1898年（明治31）	34歳	7.13 任弁理公使。 11.12 任外務省政務局長。
1899年（明治32）	35歳	5〜8 ハーグで万国平和会議。 6. 1 任特命全権公使兼外務省政務局長。 12.30 奈良の土倉庄三郎二女政子と婚姻。 12.— 米、中国の門戸開放、機会均等を提議。
1900年（明治33）	36歳	5.— 義和団事件（北清事変）勃発。 10.22 任外務省総務長官兼外務省政務局長。
1901年（明治34）	37歳	9.21 任特命全権公使清国駐劄。 —— この年、総務長官として義和団事件前後の極東問題の処理と日英同盟協約促進について活躍。
1902年（明治35）	38歳	1.30 日英同盟協約調印。 10.— 一時帰朝を拝命。
1903年（明治36）	39歳	2. 8 北京へ帰任。 6.23 日本、対露問題に関して御前会議。 —— この年、「満洲に関する露清同盟密約」の情報探知に努める。
1904年（明治37）	40歳	1. 6 清国・慶親王に対して日露開戦の場合に中立維持を勧告。 2.10 日露戦争勃発。 5.13 清国・慶親王、内田公使の追及にて露清密約の存在を肯認。 12.12 満洲軍総司令部に大山巌元帥、児玉・西両大将を見舞う。20日に帰朝。
1905年（明治38）	41歳	1.18 東京出発、郷里に3、4日滞在して大連経由で帰任。 1.— 旅順開城。 3.— 日本、奉天会戦に勝利。 5.— 日本、日本海海戦に勝利。 9. 5 ポーツマスにて日露講和条約。 —— この年、満鉄併行線の禁止条項を含む「満洲に関する日清協約」の成立に活躍。
1906年（明治39）	42歳	6. 9 免清国駐劄。 11.26 南満洲鉄道株式会社設立。
1907年（明治40）	43歳	2.26 任特命全権大使墺国駐劄（6.26着任）。 5.30 任兼任特命全権公使瑞西国駐劄。 6〜10 ハーグで第二回万国平和会議。 11. 4 男爵を授けられ、特旨をもって華族に列せらる。
1909年（明治42）	45歳	9.15 帰朝命令を受ける（10.27帰朝）。 11. 6 免兼官、免墺国駐劄。同日、任米国駐劄（12.23ワシントン着任）。
1910年（明治43）	46歳	8.22 韓国併合に関する日韓条約調印。 10.— 内田、日米新条約案と移民問題に関する覚書を米国務長官に提示。
1911年（明治44）	47歳	2.21 内田、日米通商航海条約に調印。 8.24 子爵を授けられる。 8.30 外務大臣就任のため帰朝命令を受ける（10.12帰朝）。 10.16 任外務大臣（第二次西園寺内閣）。
1912年（大正元）	48歳	3. 7 内田、議会にて南満洲の租借地及び鉄道附属地の治安紊乱は許さざる旨を演説。 7. 8 第三回日露秘密協約調印。 7.30 明治天皇崩御、大正と改元。 12.21 依願免本官。
1916年（大正5）	52歳	12.14 任特命全権大使露国駐劄。
1917年（大正6）	53歳	2.11 露都着任。 3.— 米ウィルソン大統領就任。ロシア革命（二月革命）勃発。 4. 4 内田、露国仮政府承認の公文提出。 4. 6 米国、対独宣戦布告。 11. 2 石井・ランシング協定成立。ロシア革命（十月革命）、ソヴィエト政府成立。
1918年（大正7）	54歳	1. 8 米ウィルソン大統領、平和綱領十四ヶ条を発表。 2.27 露都ペトログラード引揚、3.25帰朝。 7.22 免本官（病気保養）。 8.— 日本軍、浦塩に上陸開始。 9.29 任外務大臣（原敬内閣）。 11.11 第一次世界大戦終わり、休戦条約締結。
1919年（大正8）	55歳	5. 4 内田、山東還付を説く。 6.28 ヴェルサイユ講和条約、国際聯盟規約成立。 —— この年、対独講和問題で大いに活躍。
1920年（大正9）	56歳	3.— 尼港事件。 9. 7 伯爵を授けられる。
1921年（大正10）	57歳	7.— 中国共産党結成。 11. 4 原敬首相刺殺される。臨時兼任内閣総理大臣。 11.12 ワシントン会議開会。 11.13 免兼官（高橋是清内閣）。 12.— 四国協約発表、日英同盟廃棄。
1922年（大正11）	58歳	2.— ワシントン軍縮条約成立。中国に関する九ケ国条約。 6.12 任外務大臣（加藤友三郎内閣）。 10.— シベリア派遣日本軍撤兵。 12.30 ソヴィエト連邦成立。 —— この年、ワシントン会議、シベリア撤兵問題について尽力。
1923年（大正12）	59歳	8.25 加藤友三郎首相逝去につき臨時兼任内閣総理大臣。 9. 1 関東大震災。 9. 2 免兼官。
1925年（大正14）	61歳	2.16 同仁会会長に就任（昭和10.5辞任）。 3.30 任枢密顧問官。
1926年（昭和元）	62歳	4.17 同仁会会長として大陸視察に出発。 6. 9 中国各都市を訪問後、帰京。 12.25 大正天皇崩御。昭和と改元。
1928年（昭和3）	64歳	6. 4 張作霖爆死。 8. 7 任パリ不戦条約会議全権。 8.27 不戦条約に署名。 8.31 パリ発、欧米各国を訪問し、10.26帰朝。
1929年（昭和4）	65歳	6. 3 日本、中国国民政府承認。 7. 9 依願免本官。
1930年（昭和5）	66歳	4.11 貴族院議員（昭和11年まで）。 4.22 ロンドン海軍条約調印。 11.14 浜口雄幸首相、東京駅で狙撃される。
1931年（昭和6）	67歳	6.12 満鉄総裁。 9.18 満洲事変勃発。 11. 4 満洲事情について上奏。
1932年（昭和7）	68歳	1.28 上海事変勃発。 3. 1 満洲建国宣言発表。 5.15 五・一五事件。 7. 6 任外務大臣（斎藤実内閣）、満鉄総裁辞職。 9.15 日満議定書調印。日本、満洲国を承認。 10. 1 リットン報告書発表。 12.13 内田外相、ソ連の日ソ不可侵条約提議を拒絶。
1933年（昭和8）	69歳	1.30 ドイツにヒトラー内閣成立。 3.27 日本、国際聯盟脱退。 6.26 内田外相斡旋の下に北満鉄道譲渡満ソ第一回会議。 —— 8.26から月末まで箱根で静養。 9.14 依願免本官。 2.26 二・二六事件。
1936年（昭和11）	72歳	3.12 薨去。

関東大震災に直面後、皇居で摂政宮に拝謁

雨、蒸ス。昨夜雨。今朝日出デ、間モナク雨トナル。嵐ノ余波ナラム。登省ノ頃ヨリ雨止ミ、半曇半晴トナル。早起五時。雑務。冷水。書見。雑務。政ヘ手紙ヲ認ム。十時頃登省。十一時過、小川ニ至リ散髪ス。十一時五十八分大強震。散髪将ニ髭剃リニ移ラントスルトキ、大地震起ル。暫クシテ店主ノ強請已マサルニ依リ、階下ニ至リ群衆ト面談後、広場ニ出デ暫ク待チタルモ、地震収マラズ。ユリ返シノ虞アルニ依リヒゲソリ中止。本省ニ至ル。省員皆屋外ニアリ。官舎ノ後庭ニテ「フロツク」ニ衣更ヘ、十二時半直ニ参内。御座所ノ庭ニ於テ殿下（摂政宮）ニ拝謁。恐懼措クトコロヲシラス。御無事ヲ祝ス（表門半開ニ付、北裏門ヨリ出入ス）。殿下ニハ御満足ト思召サル。（1923年9月1日）

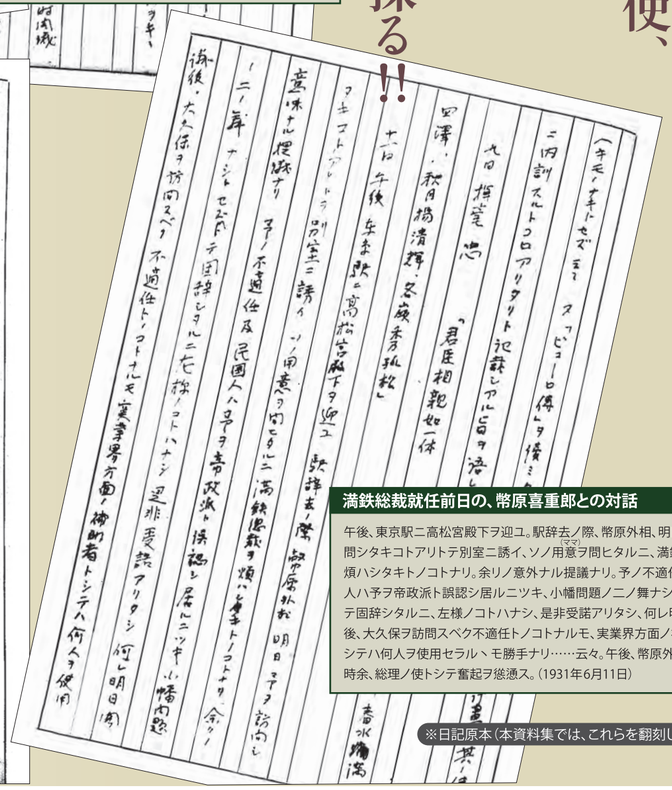
原敬首相刺殺後の行動

夕八時二十分頃、高橋翰長ト電話ス。原首相、東京駅ニテ刺サレ絶命ノ旨ヲ告ク。直ニ自動車ヲ呼ビ、同四十分出門、東京駅ニカケツク。已ニ遺骸私宅ニ運バレタルヲキヽ、芝山内ニ赴キ遺骸ニ接シ、九時半過永田町宮舎ニ至ル。司法大臣ヲ除ク他皆アリ。松方侯同ジク来会シ居レリ。法相一時間余ニシテ来ル。臨時閣議ヲ開キ、自分席次上臨時総理奏請ニ決シ、内相ト同車、参内直ニ拝謁。内相右ノ件奏請裁可。首相官舎ニ至リ右披露。一時頃帰宅。（1921年11月4日）



五度目の外相就任を匂わす発言

小林海軍少将談。熱心ニ総裁留任ヲ勧告ス。余ノ決心ニ対シ大イニ満足ヲ表セリ。午後、シカゴ・デーリノスイットランド来談。質問ニ対シ頗ル明快ニ満洲国ノ前途楽観、治安維持見込立チ次第、日本ハ承認スベキコト、門戸開放ハ全体論ハ止メ、個々ノ事実ニ付キ考フベキコト等答ユ。頗ル彼ヲ衝動セシメタルモノノ如ク、去ルニ臨ミ、外務大臣トシテ御目ニカヽラント挨拶セリ。（1932年5月31日）



満鉄総裁就任前日の、幣原喜重郎との対話

午後、東京駅ニ高松宮殿下ヲ迎ユ。駅辞去ノ際、幣原外相、明日予ヲ訪問シタキコトアリテ別室ニ誘イ、ソノ用意ヲ問ヒタルニ、満鉄総裁ヲ煩ハシタキトノコトナリ。余リノ意外ナル提議ナリ。予ノ不適任及民国人ハ予ヲ帝政派ト誤認シ居ルニツキ、小幡問題ノ二ノ舞ナシトセズトテ固辞シタルニ、左様ノコトハナシ、是非受諾アリタシ、何レ明日閣議後、大久保ヲ訪問スベク不適任トノコトナルモ、実業界方面ノ補助者トシテハ何人ヲ使用セラルヽモ勝手ナリ……云々。午後、幣原外相来談。時余、総理ノ使トシテ奮起ヲ慫慂ス。（1931年6月11日）

※日記原本（本資料集では、これらを翻刻して収録）